

日本退職者連合「政策・制度要求実現2・14院内集会」参加

経済最優先の政治から国民生活最優先の政治に転換させよう！

2月14日10時から、東京・永田町の参議院議員会館1階講堂で日本退職者連合主催「第198通常国会に向けた『政策・要求実現に向けた2・14院内集会』」が開催されました。集会には、前日に開かれた「全国事務長会議」に参加した地方退職者連合の代表も加えて約300名が結集し、JR総連OB連絡会から8名（貨物労組OB会2名）が参加しました。



主催者を代表して人見会長があいさつを行い、高齢者が安心して生活していくためには、給付の切り下げや負担増など、社会保障制度をこれ以上後退させてはならない。何としても参議院選挙に勝って政治の流れを変え、安倍首相を退陣に追い込まなければならない。と述べました。その上で、勢ぞろいした三党代表に対して「そのためには野党が大きな塊になることが重要」と一強の自民党に勝つための大同団結を強く求めました。

連帯あいさつとして、連合の南部美智代副事務局長、立憲民主党の枝野幸男代表、国民民主党の玉木雄一郎代表、社会民主党の吉川元幹事長からそれぞれ挨拶がありました。

その後、連合の伊藤影久生活福祉局長から、第198通常国会の動きと連合の取り組みについて、①2019年度政府予算案と国会提出法案に対する連合の考え方、②医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正法律案と連合の考え方が示されました。

今後の取り組みについて、退職者連合の菅井義夫事務局長が、第198通常国会に向けた政策・制度要求（春要求）で10項目の説明がありました。第198通常国会に向けて政策・制度要求実現に向けて総力を挙げて闘いぬぐため、集会の最後にアピールが提起され採択しました。